

全国学力・学習状況調査について

1 調査の趣旨

- ・全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育結果を検証し、改善を図る。
- ・各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、改善を図る。

2 実施日 平成19年4月24日(火)

3 対象学年 小学校第6学年，中学校第3学年

4 調査内容

(1) 教科に関する調査

小学6年生：国語，算数，中学3年生：国語，数学

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査，学校に対する調査

5 参加状況 (仙台市を含む)

小学校	452校	参加児童数	20,910名
中学校	222校	参加生徒数	20,767名

6 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査の結果

- ・宮城県の小・中学生は、基礎的・基本的な内容については概ね理解しているものの、学んだことを活用する力に課題があると判断できる結果となっている。
- ・小学6年生の国語・算数，中学3年生の国語・数学の正答数の分布状況については、いずれの教科においても全国とほぼ同じ分布状況を示しているが、正答数の多い児童生徒数の比率が全国と比較してやや低い状況が見られた。
- ・「知識」に関する問題の中学校の数学の正答率と、「活用」に関する問題の小学校の算数の正答率が全国と比較してやや低くなっている。

	国	A 問題			B 問題				
		正答率	全国比較	問題数	正答率	全国比較	問題数		
小学校	国語	県	80.6	-1.1	18	県	61.0	-1.0	10
		国	81.7			国	62.0		
小学校	算数	県	81.1	-1.0	19	県	61.4	-2.2	14
		国	82.1			国	63.6		
中学校	国語	県	80.8	-0.8	37	県	71.0	-1.0	10
		国	81.6			国	72.0		
中学校	数学	県	70.3	-1.6	36	県	59.4	-1.2	17
		国	71.9			国	60.6		

※ A問題 主として「知識」に関する問題， B問題 主として「活用」に関する問題

※ 本調査の結果は学力の特定の一部であること。

(2) 児童生徒質問紙の調査の結果

- ・宮城県の小・中学生は、基本的な生活習慣に関する質問に対して、全般的に肯定的な回答をしている。
- ・小・中学生ともに、家庭で予習・復習をしている割合は全国平均より高いが、家庭における学習時間については、全国平均より少ない傾向にある。

7 今後の予定

- ・宮城県教育委員会としては、今回の調査結果を更に詳細に分析し、学校における授業改善等につながる具体的な方策を打ち出し、市町村教育委員会と連携を図りながら、教員の教科指導力の向上、児童生徒の学習習慣の形成、教育環境基盤の充実に努め、宮城県の学校教育の最重要課題である児童生徒の学力向上に取り組んでいく。

8 その他

- ・平成20年度全国学力・学習状況調査日 平成20年4月22日(火)第4火曜日

平成19年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成19年10月
文部科学省

◆調査の概要

○平成19年4月24日（火）実施

○調査内容

- ・ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ・ 教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題
- ・ 「知識」に関する問題と、「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など)に関する問題を出題
また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施

○参加状況

- ・ 参加学校数 約3万3千校

国立:100%の学校が参加

公立:愛知県犬山市教育委員会を除き99%以上の学校が参加

私立:62%の学校が参加

- ・ 参加児童生徒数 約230万人

◆教科に関する調査の結果①

①「知識」に関する問題の結果

小学校の国語・算数、中学校の国語において、相当数の小中学生が今回出題した学習内容を概ね理解している(平均正答率:約8割)。

中学校の数学においては、基礎的・基本的な知識や技能を更に身に付けさせる必要がある(平均正答率:約7割)。

②「活用」に関する問題の結果

小学校、中学校の国語、算数・数学のすべてにおいて、知識や技能を活用する力に課題が見られた(平均正答率:中学校国語 約7割、小学校国語・算数及び中学校数学 約6割)。

◆教科に関する調査の結果②

- 地域の規模(公立:大都市、中核市、その他の市、町村、へき地)ごとの状況については、大きな差は見られなかった。
- 都道府県(公立)の状況については、ばらつきが少ない(ほとんどが平均正答率の±5%の範囲内)が、一部の都道府県に差が見られた。
- 公立学校間の状況については、全体としてそれほど大きなばらつきは見られなかったが、平均正答率が全国平均を大きく下回る学校はごく少数であった。

◆質問紙調査の結果<児童生徒質問紙>

- 国語の勉強が好きな中学生の割合が増加。算数・数学の勉強が好きな小中学生の割合が増加。
- 小中学生の学習時間や読書時間が増加。
- 基本的な生活習慣において肯定的な回答をした小中学生の割合が増加。
- 学力との相関については、
 - ① 学習に対する関心・意欲・態度
 - ② 学習時間、読書時間
 - ③ 基本的な生活習慣、自尊意識・規範意識などの項目で肯定的な回答又はその時間が長いと回答した小中学生ほど国語、算数・数学の正答率が高い傾向が見られた。

◆質問紙調査の結果<学校質問紙>

- 就学援助を受けている小中学生の割合が高い学校の方が、その割合が低い学校よりも平均正答率が低い傾向が見られた。
一方、就学援助を受けている小中学生の割合が高い学校は、学校の平均正答率のばらつきが大きく、平均正答率が高い学校も存在した。
- 学力との相関については、
 - ① 小中学生が熱意をもって勉強していると思っている学校
 - ② 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思っている学校
 - ③ 小中学生が礼儀正しいと思っている学校の方が国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られた。